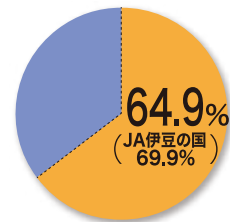


JAに関する理解の輪をもっと。

【自己改革の認知度】 JAがすすめている自己改革の認知度について、調査しました。

問 あなたのJAは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」などを目標とした自己改革に取り組んでいます。こうしたJAの取り組みをご存じですか？

- 知っている
- 知らなかった



※「自己改革認知度」=100%−「知らなかった」回答割合

**認知率は65%。
自己改革の周知に課題**

自己改革の取り組みを知っている方は約65%。過半数は超えましたが、まだ十分ではなく、さらなる周知活動が必要です。

自己改革を知った手段

- 総(代)会、集落座談会、生産部会の会合など
- パンフレット、広報誌、新聞、テレビ、ホームページなど
- イベント(JAまつり、ローン相談会など)やファーマーズマーケット
- JAの役職員から直接聞いた
- その他の方法で知った

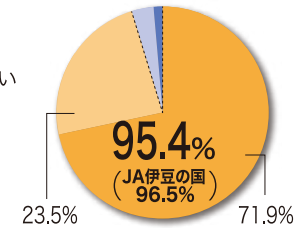


これからも、地域に開かれた存在として。

【総合事業】 信用事業や共済事業など、農業関連以外のJAの総合事業について、ご意見をうかがいました。

問 JAは地域農業や暮らしにとって必要な存在だと感じになりますか？

- 必要な存在だと感じる
- どちらかといえば、必要な存在だと感じる
- どちらかといえば、必要な存在だと感じない
- 必要な存在だと感じない

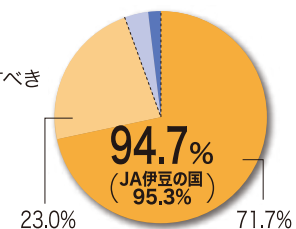


9割超がJAは地域に必要と回答

「必要な存在」と回答された方が70%以上、「どちらかといえば必要」という方も含めると、95%以上の方から肯定的な回答をいただきました。

問 JAは、農業関連事業や、信用事業・共済事業など、様々な事業を行っています。このJAの総合事業について、どのようにお考えになりますか？

- 総合事業は継続すべき
- どちらかといえば、総合事業は継続すべき
- どちらかといえば、農業関連事業に特化すべき
- 農業関連事業のみに特化すべき



総合事業は続けるべきとの声がほとんど

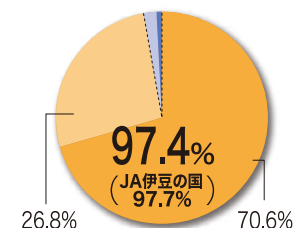
組合員の70%以上の方が「総合事業は継続すべき」と回答されており、「どちらかといえば」をあわせると、約95%の方から肯定的な回答をいただきました。農業振興を中心にくらし面での貢献が求められています。



【准組合員】 農家以外でJAに加入している組合員(准組合員)のご意見や、准組合員の制度について、うかがいました。

問 JAの事業を利用したり、地域の農畜産物を食べることで、農業体験などを通じて、JAの地域農業の振興や地域づくり活動を応援したいと思いますか？(准組合員のみ回答)

- 応援したいと思う
- どちらかといえば、応援したいと思う
- どちらかといえば、応援したいと思わない
- 応援したいと思わない

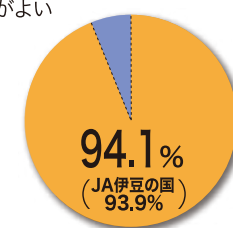


准組合員の97%が地域農業を応援

准組合員の97%以上が「地域農業を応援したい」と答えています。准組合員の方は、地域農業の「応援団」のような存在であると言えます。

問 准組合員がJA事業の利用を制限されることについてどうお考えですか？

- これまでと同様、事業の利用は制限しない方がよい
- 事業の利用は制限した方がよい



9割超が准組合員の利用規制に反対

正組合員も准組合員も9割を超える方が規制に反対し、准組合員がこれまでと同じようにJA事業を利用できることを望んでいます。

対話を重ね「不断の自己改革」を

代表理事組合長 鈴木正三

JA伊豆の国では、「農家組合員の農業所得の向上」と「地域社会への適切なサービス提供」を目標とする「自己改革」の実践に総力を挙げて取り組んでいます。

昨年からは今年にかけて実施させていただいた組合員調査の結果では、営農指導事業・販売事業・生産資材購買事業の自己改革の取り組みについて、多数の組合員の皆さまから期待や満足、さらには激励の声をいただくことができました。

また、JAが総合事業を継続していくこと、准組合員の事業利用制限を行わないことについても、多くの組合員の皆さまから賛同をいただきました。

なお、調査の際にいただいたご意見・ご要望については内容を検討し、可能な事項は事業計画に反映し取り組んでまいりたいと考えています。調査にご協力いただいた組合員の皆さまに、心より御礼申し上げます。

今後も、JAグループは、自主自律の協同組合として、組合員の皆さまと対話を重ね、組合員の皆さまの声に基づいて「不断の自己改革」に取り組む所存です。